

¡Hola, amigos!

第072号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝03:00時から07:00時の間に実施します。

臨時休刊が事前に分かる場合は、その前週号でお知らせしたいと思います。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年08月05日 カァディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ

現在有効なバック・ナンバーは071号(07月29日)、070号(07月22日)

069号(07月15日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。



・今週号・

・前号・

・前々号・

・前々前号・

今週号 No.072 (2005年・第32週) 08月05日更新

「スペイン郵便事情」の巻

横浜に居たとき、船便で送った荷物がようやく届きました。発送は4月27日で、受け取りは7月26日。ぴったり判で押したように三ヶ月丁度でした。

今日もまたミミタコの話で申し訳ありませんが、送った荷物を全部受け取れるかどうかはオーンセ・デ・ベラーノと並んで私達の目下の最大関心事の一つであることは確かです。確率が同じ程度と言っているわけではありませんが、かなり近い。

*

最初のを送ってから丸二ヶ月過ぎた頃、いくら何でも、もうそろそろ着いてもいいんじゃないかと思って郵便局に問い合わせに行きました。最寄の郵便局は徒歩15分程の所にありますが、小包や小荷物の引渡しを扱う窓口は局から百メートル程離れた別の建物にあります。日本ではあまりなじみのないシステムですね。

どうやら小包関係はあまりに手間取るので、一般郵便と同じ場所で扱うと混乱しかねない、のではないかと。これは私達の邪推ですが、そう疑いたくなるほど郵便局の事務は実に非能率的です。

で、係りのオバサンに、二ヶ月以上前に出した荷物がまだ着かないんだけど、どうしたんでしょう？ オバサン、少しも騒がず、四ヶ月マチナサイ。エエッ、四ヶ月？？と思わず声が大きくなってしまいます。マア、でも、しょうがねーナー、ここは日本じゃないモンね。

そして、ようやく着くことは着きましたが、荷物は私達の部屋に直接配達されたのではなく、エントランスの郵便受けに、これこれの荷物が届いているから取りに来いという通知票が入っていたんです。

私達の不在中に荷物が配達されたから、なのかどうかは不明です。私達が在宅ならインタフォンで何か言った筈。不在なら管理人アンドレスが代理で受け取ってくれるのが普通です。そのどちらでもないと言うことは、私達は不在、アンドレスはシエスタ休みの間に来たとしか思えません。夏のシエスタの時間にセコセコ働く現業員が居るとはどうも信じがたい。何しろここはアンダルシアです。

私達の記憶では日本のこの種の通知表には何日の何時に配達に来たが、不在だったから、ということが明記してあったと思います。そして再配達を希望なら日時を指定するか、取りに来るならどの郵便局に「いつからいつまでに」とも……。

ここの通知票には、引渡し窓口の所在地と誰から誰宛の荷物があるから「いつ迄に」という事、取りに来るときは身分証明忘れるな、受け取りを代理人に依頼する場合は委任状が必要、「配達希望」の場合は電話せよ、その場合、重量によって料金が掛かる事、などが書いてあります。「再配達」という表現は使ってません、あくまで配達。

とにかく、飛んで行きました。ところが、ナイ。郵便局にはナイというんです。そして例の決まり文句、「マニャーナ」です。

よく考えれば、もし、当日私達の不在中に実際に荷物が配達されたのなら、まだその荷物はトラックに載ってあちこち走っていたのかもしれない。だからマニャーナなのでしょうが、それならそうと書いておいて欲しいデスネ。

いや、スペインの人達にとってはそれは常識なのかもしれない。やっと来た！と飛んでってしまったこちらがマヌケだった。これまでに何個も不着の荷物があって、被害額もカナリのものになっているので、ついハヤッてしまったんですね。

*

Rがまだ若い航海士だった頃、コンテナ輸送システムはまだできていなくて、雑貨の船積みは全て手仕事でした。沖仲仕と呼ばれた作業員が一個一個手作業で船倉に積み付けたのです。その頃の定期貨物船では郵便物が来ると最優先で船積みしていました。普通、マイル・ロッカーという郵便物専門の倉庫に積むのですが進行中の他の作業を中断してまでも郵便物の積み込みを優先させたのです。

一般雑貨輸送が全てコンテナ輸送に替わった今も、郵便物には特別な配慮がなされている、筈、です。

現在、日本国内の輸送システムは完備されていて、どの宅配便会社でも、発着が本州内なら翌日配達当たり前ですね。郵便局もボヤボヤしてたら客を取られてしまうから既成の大組織を総動員して巻き返しに必死。いい形で競争の原理が生きています。

一般市民は便利この上ない。この便利さは、多分世界で一番、と思います。

だから郵便小荷物だって、郵便局で発送したものがコンテナに詰められて横浜港で船積みされる迄に10日以上掛かるとは思えません。

そして、横浜からスペインのどこかの港まで、多分ジブラルタル海峡に面したアルヘシラスだろうと思いますが、この海上輸送が20日を大幅にオーバーするとも思えない。要するに日本からスペインのどこかの港までは、一ヶ月あればまず十分ということになります。では、そこからカアデイスの我が家までどうして2ヶ月も掛かるのか？これは大いなる疑問ですが、同時に大いなる愚問でもあります。この国でこの種のこと、なぜ？は禁句じゃないか。

だって小包引渡し窓口のオバサンは平然と「四ヶ月」と言ったんですからね。だから発送から三ヶ月も掛かったことについて何かの疑問を呈すれば、一ヶ月も早く着いたじゃないノ、ということになります。競争のない社会はダメだなー。この国も宅配便会社がもっとがんばって、一般市民がどんどん利用するようにならないと……。鉄道も然り。私鉄はいつになったらできるのかな？ でも、できないだろーなー。利用客の絶対数がとても採算ベースに乗るとは思えないから……。

*

先日、或る友人が航空便で送ってくれたDVDは22日かかって到着しました。その直後、別の友人が全く同じ物を同じ手段で送ってくれたものは6日で着きました。なぜ？ と言っちゃいけないんです。とにかく無事、と言えるかどうかは別として、着くことは着いた。これが大事な点です。ベナルマデナのときは「着かない」ことがあまりに多かった。カアデイスへ来てからは、確認できる限りでは、「まだ」不着はゼロです。私達あてに「送ったゾ」と別の手段で知らせていただかない限り、そういうものが来る筈だとは知らないわけですから、不着でも、それが不着だと認識できないのです。当たり前ですけどね。でも、そういう不安感が常にあることは事実です。

*

一方、こちらから日本向けの郵便はヤヤ遅いかな、と言う程度で「概ね」良好です。

先日出した絵葉書は「二週間」で着きました。

別に、7月1日に日本向け発送したCDはまだ受け取ったと言うメールを貰っていません。同じく7月16日発送のものも当然ながら着いていないようです。

どうもこの国の郵便事情は特に物品輸送に問題があるような気がします。イヤ、そうでもないか、ベナルマデナでは日本からの手紙が日本に返送されたこともあるし、私達が出した絵葉書も、スペインから出国することもなく帰ってきてしまったこともあった。ワカリマセン。

*

その、「マニャーナ」。窓口へ受け取りに行きました。通知票とパスポート持参です。窓口は例によって延々長蛇の列。係りの女性は通知票とパスポートをじっくり見比べて何かを書き込んでいます。多分パスポート・ナンバーでしょう。

そして荷物を探しに行きましたが、なかなか見つかりません。棚にぎっしり詰まった小包を見えています。

たまりかねて、もっと大きい、このくらいのカートンですヨ、と声をかけました。すると奥の部屋に入って行って、ようやく懐かしいアノ「たこせん」の箱が出てきました。そう、この荷物は三年前私達がスペインへ旅立つ前に荷造りをして、これまでNの弟に預かって貰っていた書籍類でした。重イー、とオバサンは悲鳴。

窓口から伸び上がって中を覗くと、棚と言わず床と言わず小包・小荷物で足の踏み場もないと言う状態です。なかなか取りに来ない人も居るんじゃないか？

そして、受領サインをして、ようやく三ヶ月ぶりに我が物になったのです。私達はこの荷物の重量は先刻承知ですから用意は怠りなく、例の買い物カートに乗っけて楽々帰ったのでした。

*

まあとにかく着いてよかった。あと三個、この荷物より二週間くらい後に送っているんだけど、それがイツ着くか、ホントに着くのか、天のみぞ知る、デスネ。

あとの三個は一週間のうちに3日ずつの時間差をおいて出したんですがその時間差がそのまま到着日にも反映されるのか？ または三個同着となるか大いに興味がありま

す。もし、到着日が発送日のズレどおりにズレていたら、遅いは遅いなりに通関・配送システムは完璧に機能していることになります。三個とも同着なら、三個ともどこかでネタタに違いない。さあ、ドッチ?? 楽しミー。***

「ロハ・ペンションRyN」の巻

n + B Fが二週間滞在し、私達はペンションのオヤジ・オカミさながらの期間を過ごしました。買出しもいつもの二人分に加えて二人分プラス・アルファ。アルファは若さゆえ当然。

水物の消費増大が買い物には一番こたえます。財布がじゃなくてその重量が……。飲料・炊事用の水は全て買います。水道の水は飲用可ではあるようですが、何しろ石灰質がものすごく、お湯を沸かした鍋の底を見ると、ちょっと飲む気になれません。そのほか水物は、セルベサもビーノも生活必需品ですから、重い、という理由で削るわけにはいきません。買い物カート大活躍です。財布のほうの負担は、どうせ安いビーノ専門ですから大したことはないんです。

nたちが帰って一週間、今度は若い友人のカップルの来客です。Rが「海星」という訓練帆船のお手伝いをしたときの乗船仲間、その仲間達は私達が横浜滞在中にも大勢集まってくれて大いに盛り上がりました。

訓練帆船で知り合った仲間と言うのは年齢差を超え、社会的な身分の違いを超え、利害関係のない仲間意識で、学生時代のような感覚で付き合える貴重な人間関係だと思っています。

一般社会ではあまり経験できない、小船の劣悪な居住環境と、自然の猛威にさらされて過ごす何日間かの体験の共有は、無理なくお互いを裸にしてくれるんですね。そういう中で苦楽を分かち合う経験をしたもの同士のみがもてる共感が持続されるのでしょう。私達のような年代になると、血縁でない若い友人はなかなか得がたいものです。その、海星も残念ながら訓練帆船としての運営を維持できず、とうとう昨年身売りされてしまいました。

現在民間の訓練帆船としては大阪の三セクで運営されている「あこがれ」がありますが「海星」は純民間ベースでは初の訓練帆船として大いに意義のある歴史を残したと思います。それにしても、こういう帆船が消えてゆかねばならぬ日本人の海洋志向の貧しさは寂しい限りです。諸外国の訓練帆船も民間のものは押しなべて楽な運営ではないでしょうが、それでも各国で多くの帆船が維持されています。日本の人口や船会社・造船所の数や規模を考えると、民間訓練帆船が一隻のみとはなんとも情けない。Rが練習生として訓練を受けた、当時の運輸省航海訓練所も既に組織の形を変えたと聞きます。そのうち学校もなくなるのでしょうか。もう日本人船乗りは要らないと言うのですから・・・。

*

ところで、ペンションR y Nの間取りは既に紹介しましたね。部屋の中の写真もこれまでに断片的に添付してきましたが、ゲスト・ルームの画像はまだでした。

これがその部屋です。



ベランダ側の窓から。ワードローブの向こうがバスルーム、一応 en suite です。



窓の外を見ると、こうなります。♪前は海♪ 大西洋です。後ろに山はなし。



窓に近づいて外を良く見ると・・・。ジブラルタル海峡方面に向かう小型船。



夏のバカシオネスに入ってクルーザーの数もぐっと増えました。手前の海面に浮いているもの、ゴミではありません。この日は遠泳大会だったらしく、泳ぐ人の連なり。6月に入って急増した海水浴客は8月第一週に入ってピークに達したと言っているでしょう。開け放った窓からは浜のざわめきが聞こえますが、ベランダに出ない限り浜のごみごみは見えません。キレイな大西洋だけ。足を洗った船乗りの部屋としては理想的ではないかと自讃しています。問題は今秋にも予定されている家賃アップ。

さて、オオヤのデビ夫人風ブティック・オーナーは何パーセントを提示するか？

その額によってはこのロハ・ペンションも店をたたんで撤退しかありません。

まあ、とりあえず、どうなっても来年一年は持ちこたえようとは思っていますが、プ

ランをお持ちの方はなるべくお早めにどうぞ・・・。

もう一つの？は、年末に申請する二回目の居住許可証の更新申請です。今までどおり

の手続きならマズ問題はないと思いますが、お上の裁定は知る由もなし。

こんな狭い部屋じゃ、という高級志向の方は百メートル向こうに別館の四つ星ホテル

が控えていますからそちらへどうぞ。ただしその場合、宿賃は自前ですゾ。***

「案内看板」の巻



これは、夏になってから遊歩道に立てられた、前の浜プラヤ・ビクトリアの案内看板です。初めてこれを見たときはちょっとした驚きでした。この写真では小さい字は読み取れませんが、この浜の設備などを事細かに説明しています。

初めてここへ来た、この浜のことを良く知らない人達に、不自由なく楽しんでもらうためにはこの手の表示は当たり前で、驚くにはあたらないと思うでしょう？

その通りなのですが、この国一般の案内表示の少なさと比べると異常とも思えるほどの懇切丁寧さです。言葉の不自由な私達だから特別敏感にそう思うのかもしれませんが、鉄道やスーパーなど大勢が集まるところで、簡単な案内表示を出しておけばもっとスムーズにいろんな処理ができるだろうに思うことが随分あります。

上の大看板を詳しく見ると次の通りです。マズ、看板の左の部分、禁止事項の表示。



Ayuntamiento de Cádiz

Área de Medio Ambiente

Delegación de Playas

Normas de conducta

Code of conduct



Prohibición de gel en duchas
Do not use gel in showers



Prohibición de pesca
Do not fish



Prohibición de acampadas no autorizadas
No camping without permission



Prohibición de arrojar basuras y escombros
No rubbish



Prohibición de paso de caballerías
No horse riding



Prohibición de animales domésticos
No pets



Prohibición de vertidos de aguas residuales
Do not throw wastes



Prohibición de barbacoas
No barbecues

左の上から三番目。浜で馬に乗っちゃイカン、と言ってます。そんなことまで言わな
きゃイカンの？とも思いますが、カアディスから少し北のサン・ルーカル・デ・バラ
メーダという所では砂浜の競馬が盛んに行われる位ですから、この表示の必要性は十
分あります。草競馬ならぬ砂競馬ですが、ここの細かくしっかり締まった砂浜は天然
のダート・コース、常に良馬場です。

右の上から三番目はペットはダメヨ、です。日中人が多いときはさすがに犬を連れて
くる人は少ないですが、日が翳って人々が帰り始めると、替りに犬の散歩が続々とや
ってきます。投げ釣りの人も同じ頃やってきます。キャンプは許可なくやってはダ
メ。夜間良くテントを見かけます。が、ホントに許可を得てやっているのかどうか。
ゴミのポイ捨ては当たり前。どうもコレに関しては殆ど絶望的です。だから、毎朝、
掃除人の群れがゴミ袋を持って浜を一行横隊でゴミ拾いをしなくちゃならんのです。
ゴミを平気で捨てる人がいて、掃除の仕事にありつく人もいるというものです。

Señalización estado de la mar *Signal code*

	Playa libre <i>Free beach</i>
	Playa peligrosa <i>Dangerous beach</i>
	Playa prohibida <i>Closed beach</i>

Horario Servicios *Time of services*

Julio y Agosto de 11'00 a 21'00 horas
Junio y Septiembre de 11'00 a 20'00 horas



次は海面状態を知らせる旗の説明。旗は右のようにクルス・ロハ（赤十字）の見張り台に揚げられます。まだこの夏、赤旗が揚がったことはありません。

しかし、どうも分からないのは、どう見ても今日は波が高い、というときでも緑色、エッ、なんで？と思うようなベタ風の日に黄色の旗が揚がっていることです。

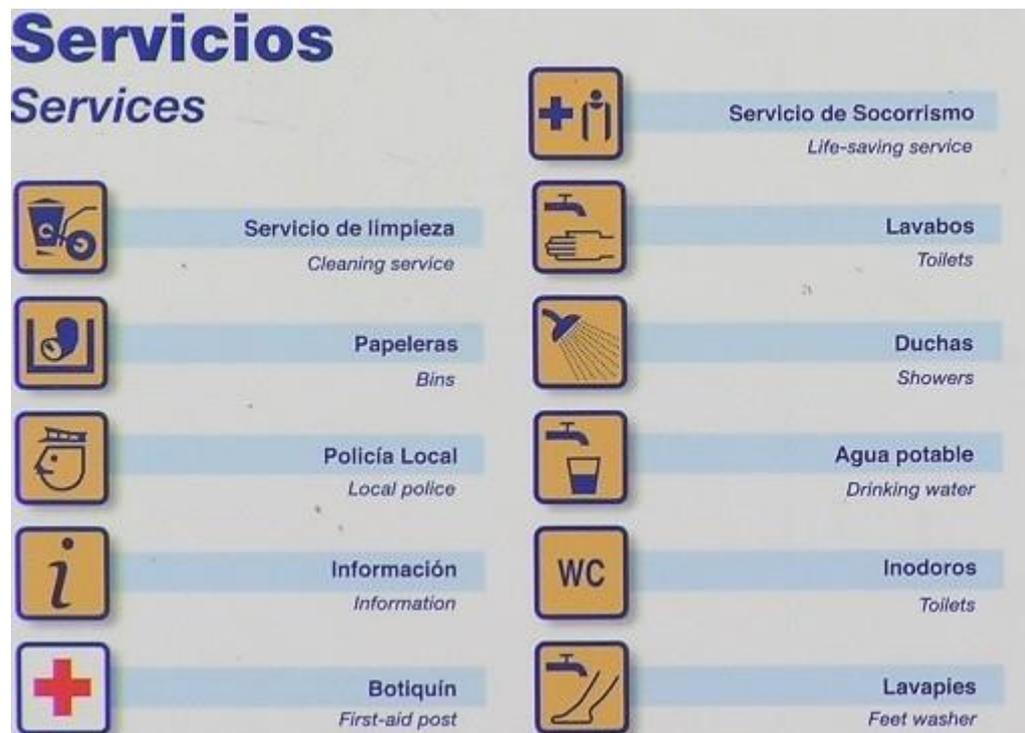
安全とか危険とかいう基準は誰がどういう基準で決めてるんでしょうか。

安危は自分自身で判断をするという基本を忘れるとろくな事はありませんね。旗が緑だったから海に入ったのにおぼれた、どうしてくれる、と言ったってもう後の祭り、結局ツケは自分に回ってくる。

英語圏の標識では at your own risk というフレーズを良く見かけます。「危険負担はあなた自身がするんだよ」ということですね。例えば道路工事中の標識には大抵これがかっついてるんじゃないでしょうか。通過してもいいけど・・・、です。

ここでは、黄色は dangerous 危険とっていますが、緑は safe 安全とは言っていません。free 自由とだけ。安全は自分自身で確保するもの、でしょう。

何か事故がおきると、問題の本質を離れて、すぐ管理者の責任追及だけに走ってしまうどこかの国などは、その反動として、アレもしちゃイカン、コレもしちゃイカン、全部イカンというガンジガラメになってしまうんじゃないでしょうか。



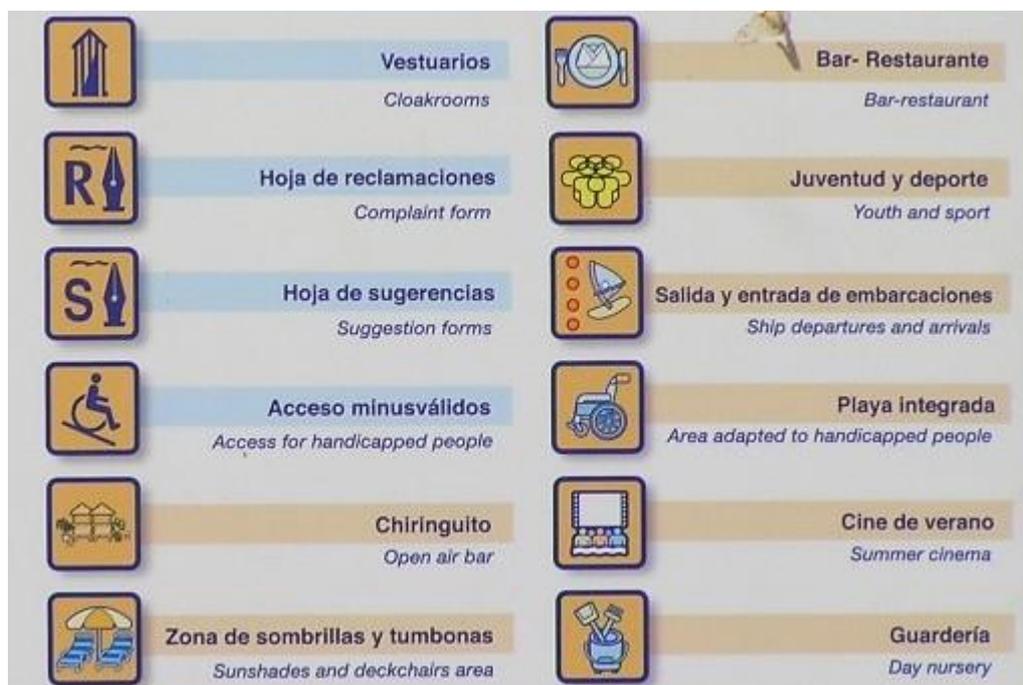
これらの禁止または案内標識で特に気がついたのは、この浜以外では殆ど見かけない英語併記ということです。

しかも、WCなんていう英語の略語を使ったものなんかヨソではまず見たことありません。万国共通の男女を表す絵文字か aseos アセオスというスペイン語が普通。

WCの標識の説明に inodoros 水洗便所、とありますが、コレもほかでは見たことのない表示です。これがこういう意味だとは辞書をみて初めて分かりました。それほどなじみのない言葉です。いまだき水洗でないトイレなんて考えられませんよね、だから普通はわざわざ「水洗の」とは言わないでしょう。

どうしてほかの表示のように絵文字にしないで、これだけWCという英語略語を使ったのでしょうか。トイレの絵文字はどここの国でだって間違えようがないほど普及しているのに・・・。

マアとにかく、この看板は、この浜がカアデイス市にとって重要な財源になるようにしっかり管理しよう、スペイン人だけでなく、より多くの外国人にも来てもらおうという姿勢の現れであることは間違いありません。だから必要以上に英語表記にこだわってしまったように思えます。



そして、もうひとつ気になるのはその英語表記がスペイン語表記となんとなくぴたりしないような気がする。スペイン語も英語も良く解ってない人間が言うべきことではありませんが、どうもちょっとスペイン語で言っていることズバリそのままではないところがあるように思います。

繰り返しますが、この浜の案内看板は異常と言えるほど懇切丁寧です。

この浜の掲示の十分の一でもいいから、鉄道・バス・フェリーなどの交通機関の発着する所、または公共機関・郵便局・銀行などの窓口などに適当な案内掲示をしてくれたら、利用者も随分助かるし、それを捌く担当者も余計な質問に答える手間がなくなり処理能率は格段に向上するはずで。

しかし、どういうわけか、スペインの人達は視覚による案内を好まないように見受けられます。窓口やバスの入り口では相変わらず延々と質問をしている人（その多くはオバさん）がいて、答える方もそれに負けない多弁で応対しています。イヤハヤ。ところで、砂浜には、あちこちに犬禁止の看板がありますが、その支柱目掛けて片足上げてチャーッとやるヤツが多くて笑っちゃいます。この決定的瞬間を撮ってやろうと狙っているんですが、なかなかチャンスに恵まれません。

犬には支柱の上の標識は解りませんから、ほかに目標のない砂浜で、立っているものを見るとついやりたくなっちゃうんでしょうね。ワカル。***